

新学習指導要領の趣旨を踏まえた「総合的な探究の時間」の実践及び考察

The Study and Practice of 'a Period of Enquiry into Integrated Studies' in Accordance with the New Course of Study for High Schools.

小林 和久*

秋山 敏晴**

Kobayashi Kazuhisa

Toshiharu Akiyama

概要

新高等学校学習指導要領では、「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」と名称が変わり、より「探究」的要素を踏まえた課題設定や活動が求められている。本稿では、本年度の本校における実践例を報告するとともに、新学習指導要領の完全実施に向け、現在、見直しを進めている北海道科学大学高等学校としての「総合的な探究の時間」の基本的な在り方について考察する。

1. はじめに

平成 30 年 3 月に新高等学校学習指導要領（以下、新学習指導要領）が告示され、3 年間の移行期間後の 2022 年度より年次進行での実施となる。

さて、新学習指導要領の実施に向けての諸準備、大学入学共通テストと高大接続改革等、高校教育の現場に課せられた課題は多岐にわたる。また、少子高齢社会や AI (人工知能) の急速な広がりに伴う産業基盤社会の変貌や労働環境の急速な変化が進むなか、「二十一世紀を生き抜く資質・能力」をどのように育成していくのかという課題もある。こうした動きを踏まえ、各学校が、これらの諸課題に対し具体的にどのように取り組んでいくのかは、きわめて重要であると考える。

本稿では、本年度の実践例を報告するなかで、北海道科学大学高等学校としての「総合的な探究の時間」の在り方について考えてみたい。

2. 新学習指導要領における「総合的な探究の時間」

2-1. 「総合的な探究の時間」の目標

新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の実現や「主体的・対話的・深い学び」からの授業改善や「カリキュラム・マネジメント」の推進等が

示されている。「総合的な学習の時間」に関しても、平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申を踏まえて「総合的な探究の時間」に改称された。新学習指導要領では、その目標を次のように示している。

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。

(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

2-2. 「総合的な探究の時間」の特質と意義

高等学校学習指導要領解説の総合的な探究の時間編では、その特質の視点として①探究が高度化し、自律的に行われること、②他教科・科目における探究との違いを踏まえることとしている。また、小・中学校の目標は、「探究的な見方・考え方を働かせ

*北海道科学大学高等学校

**北海道科学大学全学共通教育部

…」としているのに対し、「探究の見方・考え方を働かせ…」となっている。これは、小・中学校までの学習の成果を生かしつつ、より質の高い探究的な活動を重視することによる。つまり、探究の過程をより高度化したものとするとともに、自己のキャリア形成（自己の在り方生き方）と一体的で不可分な課題を自ら発見し、探究することのできる力の育成を目指したものである。その上で、学習の対象や領域は、特定の教科・科目等に留まらず、横断的・総合的であり、複数の教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせて探究すると示されている。従って、社会とのつながりについての見方・考え方を深化させるためにも、生徒の発達段階を踏まえた高等学校における「総合的な探究の時間」の意義を正しく捉え、これまでの取組の見直しや、「総合的な探究の時間」としての改善が、期待されているのである。

3. 本校における「総合的な探究の時間」

3-1. 目標

2-1 及び 2-2 でふれた新学習指導要領の「総合的な探究の時間」の目標、特質及び意義等を踏まえ、本校における目標を以下のように設定した。

自己の在り方生き方、社会のしくみや課題、職業等について、探究の見方・考え方を働かせながら多様な他者と協働し、主体的・創造的に考え、表現するなかで課題解決に向かうことができる。また、よりよく課題解決をはかるために以下のような力を身に付ける。

- (1) 主体性・学ぶことの意義や価値理解
- (2) 情報収集及び整理・分析力、表現力
- (3) 協働性・社会参画力

3-2. 各学年の探究課題及び主たる内容等

図1が、本校における「総合的な探究の時間」の構造図である。1 学年では自己を見つめ直すこと、2 学年では自分の知識や考えを豊かにすること、3 学年では将来につながる自己の確立を目指した学年探究課題を設定している。また、探究Ⅰ～Ⅲの柱に従って各学年で取り組む具体的内容を表1に示して

いる。探究Ⅱ及びⅢについては、他者や地域・社会と自己との関わりを重視しての課題設定である。

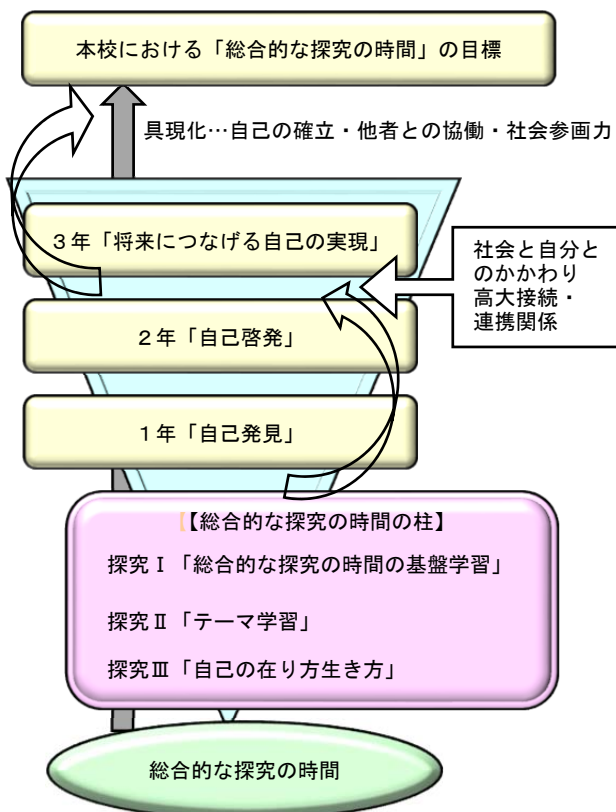


図1 「総合的な探究の時間」構造図

表1 「総合的な探究の時間」における3つの柱とおもな内容

探究Ⅰ	ガイダンス 思考ツール学習 表現サポート等
探究Ⅱ	現代社会の諸課題 修学旅行（他地域に学ぶ） 自己の興味・関心による課題等
探究Ⅲ	職業調べ 大学を知る 自己理解と学問適性等

4. 「職業調べ」の実践について

「職業調べ」は、探究Ⅲの「自己の在り方生き方」に関わる内容として設定したものであり、概要は以下のとおりである。

4-1. ねらい

- (1) 職業に対する関心・意欲を高めるとともに、望ましい職業観・勤労観を身に付け、適切な進路選択の在り方を考える機会とする。
- (2) 職業に関する課題を自ら設定し、課題解決に向け主体的、探求的に学習活動を進めるなかで、学び方や考え方を身に付け、自己の在り方生き方を考える。

4-2. 身に付けさせたい資質・能力及び態度

「職業調べ」を通して生徒に身に付けさせたい資質・能力及び態度を表2のとおりとした。

表2 身に付けさせたい資質・能力及び態度

知識及び技能	視点を定めて課題を設定するとともに、課題解決に必要な情報を収集・活用することができる。
思考力・判断力・表現力	課題解決に必要な情報を収集・分析し、その結果や自己の考えをレポート等に表現できる。
学びに向かう力・人間性	他者との関わりを通して多様な考え・生き方を尊重し、自己の生き方に生かす大切さについての理解を深めることができる。 課題を追求するなかで、目標をもち、進路選択に向けての具体的な取り組みができる。

4-3. 指導の手順

「職業調べ」のねらいや具体的調査方法等に関し、コース別に事前ガイダンスを実施した。また、当日の調査活動は、①保護者や知人から、②地域の企業（事業所）から、③系列大学や本校と関わりのある企業に協力を仰ぎながら行った。本校の特色を生かし、医療・看護系希望者は、③の方法によることとした。事後は、個人レポートの作成及び学級発表会（グループ別）を行った。事前・事後の探究過程及び具体的内容は、表3のとおりである。

表3 「職業調べ」での探究過程と生徒の学びの姿

課題の設定	ガイダンス…ねらい・調査方法等 個人レポートの作成…個人課題の設定とその理由 調査する職業についての事前調査 自己の進路希望等の記入
情報の収集	個人レポートの作成及び当日の調査活動
整理・分析	事前調査と当日調査の比較・分類・構造化等
まとめ・表現	個人レポートに追加・補足を記入 礼状作成 学級発表会の諸準備 学級発表会の実施と相互評価

4-4. 評価

評価の観点は4-2の表2に準じるものとした。また、評価方法は、個人レポートの記述内容及び学級発表会の取組や発表内容をもとに行うこととした。

5. 考察

次に、今回の実践に関しての成果と今後に向けての課題について考えてみたい。

5-1. 当日の調査活動の進め方について

市内の多くの中学校でも、「職業体験学習」を啓発的経験の一環として「総合的な学習の時間」に位置付けて実施している。中学校の場合は、教師主導（学校主導）で協力先企業をさがし、事前の打ち合わせ等を綿密に行いながら実施しており、生徒もそうしたなかでの活動経験は積んできている。

しかし、高校生という発達段階を考慮した場合、また、より「探究」的要素を取り入れながらということ考えた場合、どの程度まで学校が事前準備をすることが望ましいのかという課題があげられる。今回は、実際に自分で協力先企業をさがして調査したという生徒の割合はやや低く、「生徒自らが積極的に地域に出て…」という面での課題が残された。しかし、独自の視点から調査した生徒もいる。例えば、保護者が経営している牧場の仕事から後継者問題や地域の過疎化の問題にまで踏み込んでレポートを作成した生徒、外資系企業を訪問、単なる仕事内容等だけでなく、これからの社会で必要とされるコミュニケーション力・他者と協働する力等について詳しく話を聞くことができた生徒等である。また、保護者のように身近な大人からの聞き取りであっても、職業の世界について改めて理解を深めることができたことは、大きな成果であったと考える。

5-2. 生徒作成レポート及び学級発表会から

表4は、生徒作成レポート及び学級発表会の振り返りシートからの抜粋であるが、以下の点で生徒の意識の変容を見ることができる。

- (1) 自分が調べた職業についての理解の深まり。
- (2) さまざまな職業についての理解を深めることの必要性。

- (3) 自分の個性・適性と関連付けることの重要性.
- (4) 仕事を通しての社会とのつながりの視点.
- (5) 仲間の異なる視点から学ぶ姿勢の大切さ等.

表 4 生徒作成レポート等からの抜粋資料

【歯科医】働くことは、あくまで収入だけと思っていたが、「患者の笑顔が見たい」と本当に思って患者に接していることに感動した。

【小学校教師】…今まであまり興味のない仕事に着目してみた。改めて教師という仕事について知ることができ、将来の選択肢や進路を考える視野が広がった。

【学級発表会振り返り】…職業に就く上で、高校生のうちにどのようなことをすることが大事かを考え、知ることができた。

【学級発表会振り返り】…自分が感じたことだけでなく、他の人の視点から見たことを聞くことができ、自身の考えを深めることができた。もっと知りたいことは自分だけでなく、他の人の考えも参考にしていこうと思った。

5-3. 進路・職業に対する生徒の意識

系列大学があるという本校の特色もあり、医療・看護・薬剤系を志望する生徒の入学が多く、本年度は、特進コースでの女子生徒の占める割合も多い。しかし、将来の職業や高校卒業後の進路志望を具体的に描けずにいる生徒がいるのも事実である。こうした点は、LHR や「総合的な探究の時間」での系統的・計画的指導を進める必要がある。

5-4. 教育課程との関わりと汎用性スキルの獲得

新学習指導要領では、カリキュラム・マネジメントの推進・確立とも関連し、「総合的な探究の時間」を教育課程の中核に据える必要性についても述べられている。従って、学校のグランド・デザインでもある学校教育目標との関連性や育てたい生徒像の明確化、さらには、教科横断的な視点や各教科・科目との関わりを踏まえた教育課程の策定が必要である。これは、生徒に探究的で豊かな学びの力や汎用性スキルを身に付けさせる上からも重要である。これらの点に関しては、次年度に向けての本校の大きな課題である。

6. 今後に向けての展望

6-1. 「地域」を意識した取り組み

過疎化や人口減少等は、北海道にとって喫緊の課題である。地域について見直すことは、自分がそこでどう生きていくのか、社会とどう関わるのかを考えることにつながる。修学旅行の「他地域に学ぶ」、自己の興味・関心を踏まえた「現代社会の諸課題」等から、地域＝社会との関わりを考えることのできるより「探究」的な学びを進め、自己の在り方生き方に対する考え方や社会参画力を高めていきたい。

6-2. 高大連携教育

本校では、高大接続強化プロジェクトを進めているが、系列大学と連携できる特色をさらに生かした取り組みを推進することも必要であろう。

7. まとめ

本校では、来年度より「学びの共同体」による授業改善・学校改革に本格的に取り組むことにしているが、これは生徒の「学び」に焦点化したものである。あわせて「総合的な探究の時間」を教育課程にどう位置付け、どのような内容で取り組んでいくのかは、特色ある学校づくりの視点から重要である。道内や他県の先進校を視察する機会もあり、その良さを積極的に取り入れながら、本校ならではの特色ある「総合的な探究の時間」の構築に努めたい。

最後に、本研究紀要で実践報告できる機会を得られたことに深く感謝したい。

参考文献

- (1) 文部科学省：高等学校学習指導要領，2018 年 3 月
- (2) 文部科学省：高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編，2018 年 7 月
- (3) 大杉正英：平成 28 年版中央教育審議会 答申全文と読み解き解説，2017 年 3 月
- (4) 田村学，廣瀬志保：「探究」を探究する 本気で取り組む高校の探究活動，2017 年 12 月 20 日
- (5) 奈須正裕：「資質・能力」と学びのメカニズム，2017 年 5 月 30 日